

令和5年度 学校評価

1 本校の学校評価のねらい

(1) 教育活動の点検と改善課題を明らかにする

- ・学校教育目標の達成のために本年度の成果と課題を明らかにし、来年度に向けて改善すべき点やその手だてについての共通理解を図り、今後の教育活動に活かす。また、保護者や児童に対してアンケートを実施することで、より客観的に教育活動を捉える。

(2) 特色ある学校づくり、開かれた学校づくりを進める

- ・教育活動の重点課題を評価することによって特色ある学校づくりを進める。
- ・学校は自らの教育活動を評価する姿勢を明らかにすることによって、家庭（地域）に理解され、支持される特色ある学校、信頼される学校づくりを進める。

(3) 学校・家庭・地域の一体化を図る

- ・学校・家庭・地域が、子どもの成長とともに関わっていくことで、子どもたちの豊かな心を育て、人間としての成長につながることの共通理解をもつ。
- ・家庭や地域の要望を把握し、評価結果を明らかにして学校・家庭・地域が一体となって学校教育のあり方を考えていくような意識を育てる。
- ・家庭の教育力を高め、学校と連携、協力していこうという意識を啓発する。

(4) 設置者へ学校に対する支援や条件整備等を働きかける

- ・評価の結果を学校設置者等に報告することにより、学校に対する支援や条件整備等の改善措置への働きかけを行う。

2 評価計画

(1) 自己評価について

- ①実施時期：11月下旬
- ②内 容：昨年度の内容をベースに学校評価委員会において検討。
- ③評価段階：4件法
- ④活用方法
 - ・自己評価結果を学年毎に分析・考察し、改善策を検討・作成する。
 - ・3学期に向けての改善や今年度の反省として次年度へ引き継ぐ。また、令和5年度の学校経営案づくりに生かす。
- ⑤集 計：教頭が集計

(2) 保護者・児童アンケートについて

- ①実施時期：11月下旬
- ②内 容：昨年度の内容をベースに学校評価委員会において検討。
- ③評価段階：保護者アンケート・児童アンケートともに4件法で実施

- ④活 用：学校評価のための参考にしたり，課題等の解決のために生かしたりする。
- ⑤集 計：教頭が全校分を集計

(3) 評価に関わる日程について

期日	内容	担当者
11月下旬	自己評価の実施 児童アンケート・保護者アンケート・教師用アンケートの実施	教頭
12月	データ入力，処理	教頭
	データ考察 →【自己評価欄（取組状況・成果・課題）】を記述	教頭
	全校データと学年データを比較し，今後の【改善策】を学年毎に記述	各学年
1月10日	1月職員会議（学校評価）にて改善策の方向性を決定	全職員
2月 7日	第3回学校運営協議会 及び 学校関係者評価委員会 （学校運営協議会委員，校長・教頭・教務） ・学校関係者評価の結果を追加記入	教頭
2月～3月	保護者への公表：学校だより及びホームページにて	校長・教頭
	学校設置者（市教委）への報告	教頭

3 評価項目

昨年度の内容をベースに学校評価委員会において検討し，児童、保護者，教職員が同一の項目について教育活動について評価を行うこととした。これにより，3者の評価状況を比較することができ，改善に向けた取り組みの検討にさらなる効果が期待できると考えた。

本年度の学校評価における主な設問の領域と設問数は次のようにした。

1 学校経営について	設問 1～設問 4
2 学習指導について	設問 5～設問 9
3 生徒指導について	設問10～設問14
4 道徳等について	設問15
5 特別活動について	設問16～設問18

なお，各設問については，児童・保護者・教師の3者が回答しているものだけでなく，3者のうちの2者（児童と教師，保護者と教師）が回答しているものもある。

4 質問紙調査の回答状況と自己評価，および改善策

※ アンケート回答数

児童309名（97%），保護者212名（67%），教員29名（100%）

※ 実施した自己評価結果から

以下，各評価項目についてアンケートの回答状況とそれをもとに行った自己評価及び評価結果を受けて

立案した改善策についてまとめる。

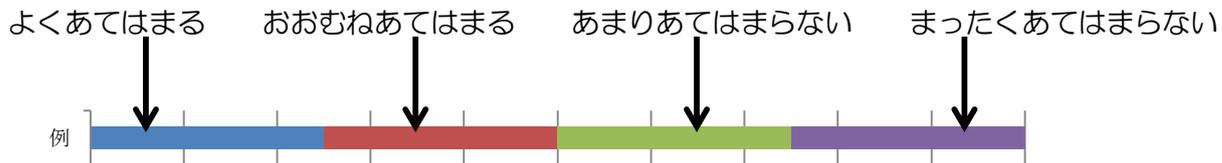
なお、以下の回答状況表の数値は割合（％）で表示している。

回答状況は、左から

「よくあてはまる おおむねあてはまる あまりあてはまらない まったくあてはまらない」

となっている。

また、この数値をもとに作成したグラフの色表示については以下のようにになっている。



(1) 領域 学校経営について

【項目1 楽しい学校生活について】

◎回答 教師・児童・保護者

1	教師	児童が楽しく学校生活を送れるように努めていますか	81	15	4	0	
	児童	学校生活は楽しいですか	72	22	4	2	
	保護者	あなたのお子さんは楽しく学校生活送っていると思いますか	77	19	4	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が、90%以上あり、全体的には、児童が楽しく学校生活を送っていると思われる。しかし「そう思わない」と回答している児童が少なからずいることは課題として受け止め、学校生活が児童にとってより充実するような工夫が必要である。

<② 改善策>

学級経営を工夫し、学級内でより良い人間関係が築けるようにしていく。担任が中心となり、児童一人一人に目を向け、きめ細かい指導を心掛けていく。授業改善を積極的に行い、分かりやすく楽しい授業作りや児童が主体的に取り組める行事等を工夫し、実践していく。入学前に保育園や幼稚園との連携を密に行い、児童の実態把握に努め、入学後の指導（スタートカリキュラム）に生かしていく。

【項目2 目標をもった学校生活について】

◎回答 教師・児童・保護者

2	教師	児童に目標を持たせて学校生活を送らせていますか	62	38	0	0	
	児童	あなたは、目標を持って学校生活を送っていますか	64	26	7	3	
	保護者	あなたのお子さんは目標を持って学校生活を送っていると思いますか	37	44	18	1	

<① 自己評価>

授業改善の一つとして、毎時間の授業の始めに、めあて（目標）を明確にした授業を教師も児童も行うよう取り組んでいる。また、年度や学期の始めには「目標」を意識させる取り組みも行っている。そのため、教師と児童に肯定的な回答が多くなっているが、保護者から見るとまだ十分ではないと考えている割合が多いと考えられる。

<② 改善策>

学校では、短期的・長期的な目標を持たせているが、児童自身が日々の生活の中で意識できないことも考えられる。授業の目標だけでなく、学校生活全般にわたる目標を児童一人一人が意識を持って生活が送れるよう積極的に声掛けを行っていく。キャリアパスポートを活用し、plan-do-checkする流れを、児

童が主体的に行えるよう支援していく。また、保護者へも学校の様子を伝える機会を増やしていく。

【項目3 安全な学校生活について】

◎回答 教師・児童・保護者

3	教師	学校は児童の安全が確保されるように教育環境を整えていますか	62	38	0	0	
	児童	あなたは、学校で安全に生活していますか	79	17	3	1	
	保護者	学校は、安全性が確保されるように教育環境が整えられていると思いますか	53	42	5	0	

<① 自己評価>

3者とも90%以上の肯定的な評価となり、概ね良好であると言える。校舎の経過年数が古くなっているため、危険な箇所等を日々校舎内外を巡回しながら気をつけていきたい。3年後に大規模改修の予定もあるが、児童に直接影響のある箇所は、市教委とも相談し、対応していく。

<② 改善策>

定期的な校舎内外の安全点検に加え、登下校時の交通指導を含め、安全指導・各種避難訓練・PTAでの通学路点検等、安全な教育環境を整えていく。集団生活での決まりや約束について、学級や学年、全校で確認をしたり、児童への安全意識を高められる指導を日々行っていく。

【項目4 学校からの情報提供について】

◎回答 教師・保護者

4	教師	学校は家庭に適切な情報提供を行っていますか	83	17	0	0	
	保護者	学校は、家庭に適切な情報提供を行っていると思いますか	55	40	6	0	

<① 自己評価>

教師・保護者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえるが、教師側の意識と保護者側の意識で少しずれも見られる。

<② 改善策>

各学年でおたよりを定期的に出して、学校での様子を伝えているので引き続き続けていく。また、授業参観や学校開放日等保護者に学校へ来てもらう機会を積極的に設け、開かれた学校作りと適切な情報提供を行っていく。

(2) 領域 学習指導について

【項目5 学習の理解度について】

◎回答 教師・児童・保護者

5	教師	児童一人一人が理解できているかどうか気を配っていますか	66	34	0	0	
	児童	先生方は、あなたが理解しているかを気かけながら授業を進めてくれますか	78	17	4	2	
	保護者	先生は、児童一人一人が理解しているかどうかを気を配っていると思いますか	62	31	7	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が、90%以上あり、概ね良好であるといえる。保護者と児童に否定的な評価もあることを自覚し、より丁寧できめ細かい指導を行い、子どもの理解に努めていく。

<② 改善策>

ペア学習やグループ学習での活動を活発にできる雰囲気をつくっていく。一斉指導で子どもの学習が定着しているか観察を行いながら、必要に応じて、放課後の時間帯に学習支援を行ったりすることで、学習の定着・習慣化をはかっていく。きめ細かい指導を教師側が常に心がけるようにしていく。

【項目6 学習に対する意欲について】

◎回答 教師・児童・保護者

6	教師	児童が意欲的に取り組む授業づくりをしていますか	72	28	0	0	
	児童	あなたは、やる気をもって授業に取り組んでいますか。	64	28	6	2	
	保護者	あなたのお子さんは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか	51	41	8	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が、90%以上あり、概ね良好であるといえる。今年度も校内研で一人一台タブレットの有効活用を研究主題とし、児童の積極的な利活用も含め、楽しい授業、分かりやすい授業の実践に取り組んでいる。まだ、やる気を引き出せていない児童がいることを自覚し、更なる授業改善を進めていきたい。

<② 改善策>

児童が自己肯定感を高め、主体的に学べる授業づくり、興味関心を持てる授業づくりを教師が意識し、実践していくことで、児童にとって分かりやすい授業を実現していく。子どもをほめ、保護者がテストの結果だけで判断するのではなく、スモールステップで児童が達成感を感じられるような支援を行い、保護者への理解を高めていく。

【項目7 地域の教育資源について】

◎回答 教師・児童・保護者

7	教師	地域の人材を、教育活動に生かしていますか	34	45	21	0	
	児童	校外に出かける学習は楽しいですか	87	11	2	1	
	保護者	地域の人材や環境が教育活動に生かされていると思いますか	35	50	14	0	

<① 自己評価>

コロナが5類に移行し、コロナ禍前の状況にもどり、地域の見学にでかけたり、地域の方を招いて授業を行ったりすることができるようになり、児童の評価は高い評価を示している。一方で、教師や保護者は、地域の方の人材活用の点に関して、十分でない意識が見られる。

<② 改善策>

コロナ前の状況にもどしていく事を前提として、地域の人材の積極的な活用を行い、開かれた学校を目指していく。また、地域の人材を活用した授業等を実施した場合、学校だよりや学年だよりで積極的に保護者へ周知していく。

【項目8 学力向上について】

◎回答 教師・児童・保護者

8	教師	児童の学力は向上していると思いますか	24	69	7	0	
	児童	あなたは、勉強がよくわかりますか	51	38	8	3	
	保護者	あなたのお子さんの学力は向上していると思いますか	48	42	9	0	

<① 自己評価>

学力の向上は、すぐに表れるものではなく、一日一日の積み重ねが、学力の定着・向上につながるものである。肯定的な評価は、3者とも90%以上ではあるが、日々の積み重ねと努力を大切にしていきたい。

<② 改善策>

学習の定着を図るため、ミニテストや復習の時間を授業に設け、繰り返し学ぶことで定着を図っていく。また、具体物や半具体物を使って操作活動を取り入れ、より理解を深められる工夫を授業で行っていく。また、学習が難しい児童については、個別での支援や放課後の学習支援を積極的に進めていく。家庭との連携を密にしなが学力向上に取り組んでいく。

【項目9 家庭学習について】

◎回答 教師・児童・保護者

9	教師	計画的な家庭学習の手立てをしていますか	52	38	10	0	
	児童	あなたは、家庭で毎日勉強していますか	64	27	6	3	
	保護者	あなたのお子さんは毎日、家庭学習をしていますか	59	30	10	1	

<① 自己評価>

家庭学習の定着に向け、年度初めに市教委や三村小学校で出している「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、家庭にも協力をしてもらいながら家庭学習の推進を進めている。また、タブレットの持ち帰りによる家庭学習への活用も積極的に行っている。一方で、課題を持っている児童や保護者もみられる。家庭学習の更なる定着をめざして、手立てを工夫していきたい。

<② 改善策>

お互いの自学の取り組みを紹介し合い、学習意欲を高めることや自分の自学のさらなる充実につながるようにする。また、自学を家庭で見てもらう日を設けているが、家庭によってばらつきもあるので、より協力が得られるよう家庭と連携を図っていきたい。家庭学習をしていないと答えた児童の中には、児童館で家庭学習を済ませている児童も含まれているため、質問の言葉を改善する。

(3) 領域 生徒指導について

【項目10 あいさつについて】

◎回答 教師・児童・保護者

10	教師	児童のあいさつはよくできていると思いますか	10	48	31	10	
	児童	あなたは、あいさつができていますか	61	31	7	1	
	保護者	あなたのご家庭では、積極的にあいさつをしていますか	67	28	4	0	

<① 自己評価>

保護者・児童は90%以上が肯定的な評価である。しかし、教師は課題があると考えている割合が多い。教師側の考える「あいさつ」と児童や保護者の考える「あいさつ」の基準や捉え方がずれていると考える。

<② 改善策>

児童が地域で元気よくあいさつができるよう、日頃から声をかけていく。どこにいても気持ちよくあいさつができる意識を児童に持たせたい。どの場面でどのようなあいさつが大切なのかを児童と教師とで共通理解を持ちながら、児童会が取り組む「あいさつ運動」等の充実を図っていく必要がある。

【項目11 相談や悩みへの対応について】

◎回答 教師・児童・保護者

11	教師	学校は、児童や保護者からの相談に適切に応じていると思いますか	83	17	0	0	
	児童	あなたは、こまったことやなやみなどがあつたとき、先生方にそうだんできますか	50	31	12	6	
	保護者	先生は、相談事や悩みなどに、適切に応じてくれようとしていると思いますか	67	28	6	0	

<① 自己評価>

教師・保護者ともに肯定的な評価が90%以上であるが、約20%の児童が、否定的な評価となっている。アンケート等の方法で補ってはいるが、先生には何でも話せる雰囲気づくりや信頼感を児童に持たせられる学級経営が必要である。

<② 改善策>

自分から話しかけられない子や相談することが恥ずかしい子、こんな事を相談していいのかと気後れしてしまう児童も少なからずいる中で、日頃から教師が児童を細かく観察し、積極的に声かけを行ったり、児童の声に耳を傾けるよう意識しながら、児童の小さな変化に気づけるような気配りが必要である。また、担任だけでなく、学年や学校全体で児童とのかかわりを増やし、児童の相談相手を増やしていく事も必要である。

【項目12 いじめに対する取組について】

◎回答 教師・児童・保護者

12	教師	いじめなどない楽しい学級づくりに努めていますか	83	17	0	0	
	児童	あなたは、友達と仲良くすごすことができますか	80	17	3	0	
	保護者	先生は、いじめなどない楽しい学級づくりに努めていると思いますか	65	30	5	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が、90%以上あり、概ね良好であるといえる。「いじめは絶対に許さない」という共通理解のもと、学校一丸となりいじめの根絶に取り組んでいる。最近では、スマホ等のSNS上でのトラブルも増えつつあるので、家庭とも連携をとりながら、いじめのない楽しく安心して過ごせる学校づくりを基本とし、いじめの早期発見・早期対応に努めていく。

<② 改善策>

一人一人の児童の様子を観察し、気になる児童へは積極的に声掛けや相談を行っていく。また、いじめのない学校づくりとして、道徳教育の充実を図っていく。アンケート結果をもとに、いじめ事案については、迅速かつ丁寧な対応を教師全員が常に心がけるようにする。また、情報モラル教室も高学年中心に実

施していく。

【項目13 個に応じた生徒指導について】

◎回答 教師・児童・保護者

13	教師	学校は、個に応じた生徒指導に力を入れていると思いますか	55	41	3	0	
	児童	先生方は、あなたを良くしようと指導してくれていますか	79	18	2	1	
	保護者	先生は、学級で、みんなが気持ちよく生活できるような指導に力を入れていると思いますか	64	31	4	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が、90%以上あり、概ね良好であるといえる。教師の「そう思う」の割合が55%と低い傾向にある。教師自身が今以上に児童に寄り添う意識を持ち続ける必要があるという表れだと思われる。

<② 改善策>

一人一人が大切にされる学校づくりに努めるとともに、問題行動の早期発見、早期対応を常に心がけ、チーム三村として担任だけでなく、教職員全体で問題行動に対応していく体制づくりや、保護者だけでなく関係機関とも連携を取りながら、生徒指導・問題行動の解決に取り組んでいく。

【項目14 児童理解について】

◎回答 教師・児童・保護者

14	教師	児童のことをよく理解していると思いますか	52	45	3	0	
	児童	先生方は、あなたのことを、わかってくれていると思いますか	79	16	3	2	
	保護者	先生は、あなたのお子さんのことをよく理解していると思いますか	64	30	5	1	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が、90%以上あり、概ね良好であるといえる。教師の「そう思う」の割合が52%と低い傾向にあるが、項目13と同様であると思われる。わかってもらえない児童・保護者がいることは課題として真摯に受け止めたい。

<② 改善策>

自分を出すことに抵抗がある児童もいるので、丁寧な声掛け、言葉がけをして児童とのかかわりを増やしていく。児童の話を丁寧に聞いてあげるだけでなく、話しやすい環境を整えていく事も必要である。

(4) 領域 道徳等について

【項目15 豊かな心の育成について】

◎回答 教師・児童・保護者

15	教師	人の生き方について考えさせる等、「まごころ」(命を大切に・信頼し合う)を育てようとしていますか	69	28	3	0	
	児童	あなたは、やさしい心・思いやりの心をもったりして生活していますか	71	25	4	1	
	保護者	学校は、人の生き方について考えさせる等、豊かな心を育てようとしていると思いますか	47	45	8	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好と言える。授業でも相手の意見を尊重するなど相手の立場に立ち考え、行動できる児童の育成を図っていきたい。

<② 改善策>

道徳の授業をさらに充実させるため、授業改善をさらに続けていくとともに、全教科また学校生活全体で横断的に道徳的要素を含んだ授業を実践し、児童の主体性を考慮した授業を考えていく。また、将来や進路を見据えたキャリア教育の視点を持ち、「生き方」を児童一人一人が見つけれられる機会を意識できる道徳授業を行っていく。

(5) 領域 特別活動について

【項目16 環境整備活動について】

◎回答 教師・児童

16	教師	校内の環境整備に積極的に取り組んでいますか	66	34	0	0	
	児童	あなたは、学校をきれいにしようと取り組んでいますか	75	21	4	0	

<① 自己評価>

教師・児童とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。真面目に清掃活動に取り組む児童も多く、教師も児童と一緒に取り組んでいる。

<② 改善策>

児童会の取り組みでも「無言清掃」で清掃活動に集中して取り組む活動が行われている。普段から、気づいたら自ら進んでゴミを拾い、自分たちの学び舎の美化に貢献する気持ちを持つ児童を育てていきたい。

【項目17 学校行事について】

◎回答 教師・児童・保護者

17	教師	運動会などの学校行事が充実するように努めていますか	83	17	0	0	
	児童	運動会などの学校行事は、楽しくて、満足できるものですか	82	13	4	1	
	保護者	運動会などの学校行事は、あなたのお子さんにとって楽しく充実していると思いますか	73	25	2	0	

<① 自己評価>

3者とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好と言える。コロナが5類に移行し、制限なく実施できた運動会であった。目標に向けて練習から日々努力する児童の姿が強く感じられるた。

<② 改善策>

半日開催の開催方法等保護者の意見も参考にしながら、絶えず工夫をしていく意識を持ち、全校児童が充実し成長できる行事としていく。

【項目18 児童会活動について】

◎回答 教師・児童

18	教師	児童会活動が充実するように努めていますか。	66	31	3	0	
	児童	児童会活動に、いっしょけんめい取り組んでいますか	70	25	4	1	

<① 自己評価>

教師・児童とも肯定的な評価が90%以上であり、概ね良好であるといえる。項目17と同様、コロナ後で児童会の活動も増え、昨年以上に活発に活動することができた。

<② 改善策>

今までできなかった児童会行事が実施できるようになり、コロナ以前の活動に戻ってきた。児童が主体となり活動できる行事や取り組みを、児童会と教師とが話し合いを重ねながら更なる活動の充実を図っていく。

5 学校関係者評価委員会における話し合いから

(1) 令和5年度 学校関係者評価委員会について

① 期日 令和6年2月7日(水)

② 参加者

学校運営協議会委員として

望月 孝之 様 (元三村小学校校長)
山本 知子 様 (元三村小学校教頭)
新藤 秀子 様 (地区民生委員・主任児童委員)
井口 太 様 (わかば幼稚園園長)
福田 透 様 (学校支援ボランティア代表)
内藤 広人 様 (PTA会長)
小池 洋平 様 (PTA副会長)
久保 光 様 (PTA副会長)【当日欠席】

学校側から

田中 真也(校長) 永関 幸玄(教頭) 河西 利樹(教務主任)

③ 内容

- ・事前に学校評価の結果と自己評価・改善策を委員の皆様へ送付しておいて、当日、各項目についてのご意見をいただいた。

(2) 学校関係者評価委員(学校運営協議会委員)から出されたご意見

《学校経営に関して》

【項目1に関わって】

- ・保護者の評価が高い。学校や先生方を信頼しているあかしである。

【項目3に関わって】

- ・登下校時の安全確保は、見守り隊の方々の協力が大きい。

《学習指導に関して》

【学習指導全般に関わって】

- ・全般的に良い評価である。

【項目7に関わって】

- ・地域の人材活用を積極的に行っていくべきである。コロナ禍も終わり、「開かれた学校づくり」を推進していく事が大切である。

【項目5, 6, 8に関わって】

- ・教師の評価が低い事が気になる。先生方の謙遜もあるかもしれないが、高い意識と自信を持って回答してほしい。

《生徒指導に関して》

【項目 10 に関わって】

- ・あいさつは、相手に対して心を開くこと。中には、立ち止まってしっかりあいさつをする児童もいる。とても感心する。
- ・年度初め、年度終わりに「ありがとうございました」としっかりあいさつ（お礼）が言える子どももいて、感心した。家庭での指導（言葉遣い等）もあいさつができる出来ないことに大きな関係性があるように思える。PTA の会議等で、家庭でもあいさつの大切さを周知してほしい。

【項目 14 に関わって】

- ・教員の「4」の割合が低い。「3」の割合とプラスした数値（割合）がほしい。
- ・教科指導等の教員の資質・学習面の指導だけでなく、児童の家庭や仲間関係など学校生活全般に常に目を配らせていくことが大切である。自分のクラスや学年児童全員に言葉がけをする、児童との触れ合いを増やす工夫、子ども達の心に耳を傾ける意識、児童の遊びの姿を見守ったり、時には一緒に遊ぶ事など、積極的に子どもとのかかわりを増やす教員を目指してほしい。特に年度初め（学級・学年開き時）は重要なので。

《道徳等に関して》

【項目 15 に関わって】

- ・キャリア教育について説明。
- ・保護者の評価が少し低い。子どもが道徳の授業を家庭で話さない（内容によっては話にくい所もあるが）こともあると思う。
- ・道徳はすべての教科で横断的に関わるものでもあるので、道徳の授業だけでなく、日々の生活の中で子どもが考え、より良い考えが持てるよう、家庭とも連携しながら子ども達を育ててもらいたい。

《特別活動に関して》

【項目 16 に関わって】

- ・教師、児童だけでなく、保護者の設問も設定しても良いのではないかと。例えば「家庭でも自分の身の回りの整理整頓ができていますか。」学校だけでなく、家庭で整理整頓が身につくと、学校でも同じことができる。子ども達の自立も含めて。

【項目 17 に関わって】

- ・運動会は、半日開催であるが、1日開催の希望について、児童へもアンケートを取っても良いのではないかと。
- ・保護者からも様々な意見があると思うが、運動会に向けての取り組み、暑さ対策、半日開催が一般化しつつあること、また、多忙化軽減なども考えると半日開催が妥当ではないかと思う。

《その他 保護者のコメントから》

- ・（生徒指導）暴力行為等があった場合は、迅速かつ適切に対応することが重要である。加害・被害両児童と保護者への丁寧な説明と加害児童への指導・被害児童へのケアをしっかり行っていくべきである。
- ・（特別活動）手作り弁当の日は縦割りに分かれてお弁当を食べるが、家庭はお弁当を作るのが大変。

弁当給食のような対応ができないか。⇒給食がセンター化したので、給食センターで弁当給食的な対応するのは難しい。

・(学習指導) ファミリー読書について何か負担軽減策はあるのか。⇒冬休みから冊数を減らし、負担軽減に取り組んでいる。夏休みも6冊は多いと思うので、来年度は軽減策を考えていく。

・(学習指導) 三村寺子屋を再開する場合、教員だけでは無理があり、負担も大きくなると思うので、地域の人材を積極的に活用し、子ども達の学びの場を広げてもらいたい。

・(働き方改革) 先生方のコメントで、職場の雰囲気が良いとのコメントがあった。教員が何でも相談できたり、コミュニケーションが取れやすい職員室は、児童達にとっても、学校経営上、また学校運営をよりよく進めていくために最も大切なことだと思う。

・(その他) 児童達もコメントが書けるようにした方が良いのではないか。